

学校経営目標等 重点目標	関係 分野	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（中間）	評価	自己評価（最終）	評価	総合 評価
「わかる授業」の実践 学ぶ楽しさを 実感することで、自ら 学ぶ力や向かう力を 育成する。	教務課	「自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞くことができる」の保護者評価(67%)と生徒評価(87%)の差が大きくひらいている(差が20%)	・授業改善に向けて、グループ学習、ペア学習や言語活動等を行い、「自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞くことができる」の保護者評価と生徒評価の差が20%を下回る。	・「学習のスタンダード」ができるよう促す。 ・GrowUpチームと協力し、授業改善につとめる。 ・授業事例の提案をまとめる。 ・授業参観での工夫を呼びかける。	・「学習のスタンダード」は教室掲示した。 ・GrowUpチームと協力し、朝礼等で見学を促した。見学を受けて学びとなった点をまとめることができた。 ・11月にも授業参観での工夫を呼びかけていきたい。	B	・授業改善に向けて、グループ学習、ペア学習や言語活動等を行い、「自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞くことができる」の保護者評価と生徒評価の差がおよそ20%となった。 ・「学習のスタンダード」を徹底するよう、年度途中でも促すように来年度はしたい。	B	
	国語科	・50分の授業に堪えられず、途中でトイレやゴミ捨てに歩き出したり、友達と大きな声でしゃべったりする生徒が各クラス数人いる。中には学力は高くないが、真面目に取り組もうとする生徒もいて、しっかり言葉の力をつけさせたいと考えているが、なかなか落ち着かない。 ・基礎力診断テストの結果では、義務教育の範囲での得点率が7割に満たず、漢字の読み書きが困難な生徒が一定数いる。	・年度当初と中間期、年度末と3回アンケートを行い、中間、年度末と平均値を上げていく事ができるようにする。今年度の目標が「分かる授業」ということなので、アンケートは5段階で考えているが、3の「国語の授業では内容を大体理解出来ていて、定期考査で赤点を取ることはない。」と6割以上の生徒が答えられることを目標数値とする。	・生徒の興味を引き出せるようにICTを使用し、自分が取り組んだことを評価できるように、「やる気プリント」を全学年共通して取り入れる。(3学年共通) ・「キミスタ」を使って言葉で社会を知ることが出来ることを感じさせる。(3年) ・小説や古典の読解や比較を通じて心情の機微に気づかせる。(2年) ・短文を用いて演習を重ねることで、読解力・語彙力を伸ばすトレーニングする。(1年)	・「やる気プリント」は全学年で取り入れ、枚数の個人差はあるが、半数以上の生徒が参加した(3年)。参加80%、科毎のランキングも作り、意識向上に繋がった。(1年) ・「キミスタ」を使用した授業も1学期に7回で、スムーズに利用して記事を読むことは全員ができるようになった。感想は「A」でごまごまという生徒もいるにはいるが、興味のある分野の記事は読むようになった。 ・「分かる授業」のアンケートでは、締め切り前のため回収率40%現在で、3以上が85%であった。(2年) ・短文を用いて正しい日本語を学ぶと共に話し合いや情報の精査も取り入れた演習を行い、学習することに対する抵抗が小さくなってきた。(1年)	B	・「やる気プリント」は全学年で取り入れ、特に1年生は科毎のランキングを作り93%が参加し、成果をあげた。 ・「キミスタ」を使用した授業もこれまで14回で、スムーズに利用して記事を読むことは全員ができるようになった。「分かる授業」ということでは、3以上を選んだ生徒は90%だった。(回収率59% 3年) ・4回の定期考査で知識・理解度を各回23問の選択問題と記述式2題で意見等を書かせた結果、平均点は62点(100点換算)であった。 ・授業評価アンケートの結果、時事問題への興味関心について肯定的意見が70%以上となった。	B	
	公民科	・授業で時事問題について教師からの解説、発問、生徒の感想発表等を行っているが、時事問題への関心や知識が乏しい。	・3年生授業評価アンケートに項目を作成し、時事問題への興味関心について肯定的意見が60%、小テストの平均点が60点を超える。	・3年生の授業でニュース検定の問題集を使って多分野のトピックを取り上げ、教師からの解説・発問や生徒相互の感想等の交換を実施する。 ・定期的小テストを実施する。	・3年生の授業でニュース検定の問題集を使って多分野のトピックを取り上げ、教師から解説をした。 ・教師が主導して生徒相互の感想等の交換を実施した。 ・2回の定期考査で知識・理解度を確認したが、正答率は50%程度であった。	B	・授業でニュース検定の問題集を使って多分野のトピックを取り上げ、解説した後、生徒相互の感想等の交換を少人数のグループで実施した。 ・4回の定期考査で知識・理解度を各回23問の選択問題と記述式2題で意見等を書かせた結果、平均点は62点(100点換算)であった。 ・授業評価アンケートの結果、時事問題への興味関心について肯定的意見が70%以上となった。	B	
	数学科	・日々の授業で使うプリントなどの教材を十分に管理できず、考査前などに復習できない生徒がいる。 ・「できた」「わかった」という実感を持って、自ら学ぶに向かう力が不十分な生徒もいる。	・1年生については、日々の授業プリントなどを管理させ、管理したファイルの提出状況が70%を超える。 ・年度末にアンケートを行い、「できた」「わかった」等の肯定的回答が60%を超える。	・1年生については、数学専用のファイルを購入し、日々の授業プリントを管理させる。定期的に提出させてチェックする。 ・グループで活動できる単元を研究し、班員の意見を聞いたり、教えあったりすることで、学ぶ楽しさを実感し、自ら学ぶに向かう力を育成する。	・1年生については、年度当初に数学専用のファイルを購入させ、日々の授業プリントを管理させている。また、定期的に提出させてチェックしている。クラスによっては、提出率が70%に満たない点が課題である。 ・学習内容によっては、グループ活動を取り入れている。その際、班員の間での教えあいが活発に行われるよう支援した。	B	・1年生については、年度当初に数学専用のファイルを購入させ、日々の授業プリントを管理させている。提出率は学年全体で70%を超えた。 ・できるだけ多くの場面で、グループ活動を取り入れられるよう研究した。その際、班員の間での教えあいが活発に行われるよう支援した。 ・年度末にアンケートを行い、「できた」「わかった」等の肯定的回答が学校全体で60%を超えた。	B	
	理科	・座学中心の授業では最後まで集中力がもたず、学習への意欲が不十分な生徒も少なからず存在する。	・年度末にアンケートを行い、「できた」「わかった」等の肯定的回答が60%を超える。	・ICT機器を活用し視覚的に理解しやすくする。 ・実験を行い、課題解決能力を養う。 ・具体的な自然現象をあげ仮説を立てさせる。	・科目の特性上、目で見えないものを扱うことが多いため、パワーポイントや動画を利用して視覚的に分かりやすいよう授業展開を行っている。 ・適宜実験を行っており、そこで仮説を立てさせ、結果から考察をさせている。今後は目的だけを提示し、実験計画を立てさせる等、内容を深めていきたい。	B	・授業アンケートを実施し、暫定的な数値ではあるが「授業が分かりやすい」という質問の肯定的意見が91.3%であった。 ・また、同アンケートで「実験は授業内容を理解するのに役立つ」という質問の肯定的意見が96.2%であった。実験をすることで生徒の科学的探究心が養われるので今後も適宜実験を行い、深い学びにつなげていきたい。	B	A
	体育科	・楽しく活動することと、目標を明確にし、ルールの下で活動することの違いを分からず活動する生徒が多い。 ・活動としてはまだまだ不十分であるが体を動かすことは好きな生徒が多い。	・生涯スポーツに向け、目標を定め、ルールをしっかりと把握して活動できるようになる。	・種目の特性を知り、また、自己の身体活動のレベルを知り活動させる。	・7月からの暑さが深刻で、体育の活動に影響が出ている。特に外での活動が顕著で、身体活動に悪影響を及ぼす暑さである。この状況下で、生徒たちはON、OFFを上手く使いながら工夫して活動を何とかしようとする姿勢がみられた。	B	・学年が上がるにつれ、体育科が意識している生涯スポーツ(自分たちのレベルを知る)ができていく。また、独自ルールも考え人数による過不足も考えるなど、レベルアップが図れている。	B	
	英語科	・中学校レベルの内容の定着度は不十分である。 ・ゲーム感覚で楽しめる言語活動への取り組みは良好である。	・積極的に言語活動に取り組むことを通じて、自分自身の英語力が少しでも身についたことを実感できる。	・講義形式の授業の他、生徒の得意分野を踏まえパフォーマンス活動を積極的に取り入れる。	・音読を中心とした言語活動やALTとのTTを中心にペアワークやグループ活動を実施した。英文理解や文法学習以外の活動を積極的に取り入れることで、生徒にできる(取り組みやすい)感覚をもたせることを意識した。 ・生徒の特性に応じて、Chromebookを活用した単語学習などを実施し、評価に活用した。	B	・ペアワークやグループ活動を効果的に取り入れることで、英語学習に対する興味・関心をもたせることはできたと考え。英語の基礎学力定着については、今後も効果的な手法を考え、積極的に取り入れたい。 ・生徒の特性を踏まえ、課題の内容等に工夫・配慮してきた。成果が大きくみられることはないが、今後も継続していく。	B	
	家庭科	・岡山市内から通学している生徒が多く、玉野市の特産品などについてあまり知らない。 ・学習したことへの定着が不安定であるため、授業内容の復習の必要性を感じている。	・玉野市の特産品について興味関心を持ち、自分で調べて調理実習で作ってみたいという意識が高まっている。 ・わかる授業を繰り返しの授業ととらえ、毎回の授業の復習により、授業内容の定着を図る。	・玉野市のグルメの温玉めしや野菜具たくさんスープや紫芋を使ったお菓子など、調理実習に取り入れて玉野市の地域の特産物を理解する。 ・フォームを使って授業前に前回の授業内容の復習をする。自動採点して解答をフィードバックできるので、生徒のやる気につなげていきたい。	・1学期で学んだ調理内容を夏課題「家族に夕食を作る」として実施した。これにより技術の復習と向上、家族に喜んでもらえたという達成感を感じることができ、また挑戦しようという意欲につながる。 ・2学期からは被服実習を通して衣服環境を整えることを学び、これからの生活環境を整える基礎力を身につけさせたい。	B	・2学期の被服実習では、chromebookに動画を配信し、わからない部分を何度も確認しながら基礎基本を丁寧に指導できた。 ・2学期の調理実習では玉野市番田産の紫芋を使用してカップケーキをつくり、日頃お世話になっている人にメッセージカードを添えてプレゼントした。生産者の方の所へ紫芋を取りに行った際に、生産者の方の写真や農園の写真を撮らせていただき、授業で説明する時に使用し、玉野の特産品についてより身近に感じる事ができた。	B	
	工業科	各々での機械科教員で、生徒が学ぶ楽しさを実感できる授業を実施しているが、教員間でその情報を共有し生かしていくことが必要である。確かな知識と技術を高めるための具体的手立てを講じていかなければいけない。	機械科教員の授業力・実習力が高まる。またそれに伴い、機械科組織としての知識力・技術力も高まる。結果、確かな知識と技術を生徒に教えることができ重点目標を達成することができる。	・機械科組織内での授業実践の共有(授業・実習の授業参観や情報共有) ・技能検定等を利用し、企業連携を最大限利用したOJTを行い、機械科教員の知識力技術力を高める。	・授業参観や公開授業を利用して機械科教員の相互授業見学を実施できた。 ・機械科教員研修を行い3DCADでの図面作製や3Dプリンターを使用したの、ものづくりの知識技能を高める教員研修を行った。 ・企業連携OJTで、特別非常勤講師による機械科教員に対する技術指導を実施し教員の国家資格取得に向けての知識技能の向上の取組が実施できた。	B	・機械科教員の相互授業見学を実施でき、教員研修では3DCADでの図面作製や3Dプリンターを使用したものづくりの知識技能向上ができた。 ・企業連携OJTで、特別非常勤講師による機械科教員に対する技術指導を実施し教員の国家資格取得に向けての知識技能の向上の取組が実施できた。 ・新たに導入されるNC旋盤の教員研修(実技研修)が実施できた。 ・今後も年間を通し教員研修を実施し機械科教員の知識技能の向上を図っていきたい。	B	
	商業科	商業科目はビジネスに関する知識やマナーなどを学ぶ科目もあるが、検定を受験する科目については、検定レベルの内容まで取り組むと本校生徒には難しい内容がある。上を目指す生徒の底上げと、困難を示す生徒への対応の両立に苦慮している科目もある。一方で検定をスモールステップの目標として達成感を育てる事も出来ている。	各科目で学期ごとにアンケートを実施し、最終のアンケート結果で「授業の中で、わかった・できた、と思えることがあった。」「授業に積極的に取り組めた」という項目で肯定的回答が60%を超える。	・各科目で、「わかる楽しさ」を感じられるような教材や内容を取り入れ、授業方法などの工夫を行う。 ・T・Tの科目では必要に応じて授業形態を工夫し、生徒のレベルに応じたわかる授業の実施に取り組む。	・「観光ビジネス」では、全員で玉野市の宿泊施設・飲食店を調べ、スライドにまとめたものを共有できるようにして、他の生徒の調べたことや表現の工夫を見比べて学びを深めた。今後の観光プランにも活用する。 ・「マーケティング」では、広告のコピーを考え、コンテストに応募した。またその作品についてクラスで投票を行い、短い文章で伝える難しさや楽しさを共有することができた。 その他の科目でも、調査や話し合いなどを行っており、自ら考えたり知識を広げる活動を行うことができた。	B	・各科目において、理解を深める事例を提示したり、ワークシートや解説プリントを用いるなど、授業方法の工夫を行った。 ・多くの科目において、グループワークや教え合いなどを取り入れ、生徒の理解を深める取り組みを行った。 ・T・Tの科目では、理解度に応じてグループに分けたり、理解が不十分な生徒へサポートを行うなど授業形態を工夫した。 ・1学期2学期について行ったアンケートで「授業の中でわかった・できたと思えることがあった」という項目での肯定的回答が87%であった。	A	

